2021年度　サポートシステムあゆみ　事業報告

　生活介護・放課後等デイサービス・居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護

地域生活支援事業・インフォーマルサービス）

サポートシステムあゆみ　施設長　戸田拓郎

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染状況に対応しながら各サービスを実施した。年度内に３回、法人職員の陽性者の対応で事業休止する事があったが、いずれもクラスターとはならず数日で事業再開する事ができた。まだまだ制約の多い中ではあったが、各事業において出来る限りの感染対策を行いながら、利用者にとってできるだけ充実した生活を支えていけるよう工夫して活動してきた。

年度初めの計画にあった常勤職員の補充については実現しなかったものの、コロナの収束が見えず特に個別支援において利用ニーズが増大する事がなかった為、人員として大幅に不足する事はなかった。但し限られた人材の中で、利用者との相性や同性支援においての男女比の不均衡もあり、年度途中でパート職員１名を採用したものの一部の職員に負担が偏ってしまう課題は継続した。

放課後等デイサービスの新規事業所等の計画に関しては、定員増による報酬単価の減額と人件費等の支出のバランスを熟慮して断念した。しかし、環境整備として成人事業と分かれて互いに落ち着いて過ごせる場所の確保は感染症対策の意味でも必要であり、移転等について検討を続ける。

職員研修については、リモート開催や状況を見て対面での外部研修にも一部参加して知識向上とスキルアップを図った。

各利用者のニーズ・思いを実現する為、家族とも相談・連携しながら支援を行ってきた。しかしながら複雑な家庭や社会の環境の中で、利用者本人の命・人権・生活を守っていく為に家族との間だけではなく多機関での連携が必要となるケースもあった。今後は利用者や家族の状況に応じて、行政や教育機関、相談支援事業所や他の福祉施設等様々な関係機関と情報を共有し共に検討しながら支援していく事が、これまでにも増して必要になると考えられる。

【生活介護事業（ふきのとう班）】

　利用者13名に加え、オープンスペース‛AYUMI’から1名が週に2回活動に参加した。9月からは利用者1名が他法人施設に入所し、退所となった。

新型コロナウイルス対策として昨年度から行っている短縮通所を15時退勤から15時30分退勤に変更した上で継続した。感染状況により一時期通所を自粛される利用者もあり、在宅支援を行った。

活動内容としては、ポスティングを再開し、地域との関わりを持てるようにした。また、感覚刺激や運動の為、「鈴紐ゆらゆら」や「箱積みゲーム」・ストレッチ等の活動を取り入れていく事により、利用者の新たな一面が見られる事にもつながった。サタデーズを中心に運動会やクリスマス会等の季節を感じられるイベントも班内で行った。

【放課後等デイサービス】

　4月に新1年生数名と年度途中での新規契約もあり、1日あたりの平均利用者数は前年度を約1.9人上回った。ただ、1月以降は新型コロナウイルス第６派の影響があり、利用の自粛や、利用予定の児童が陽性者や濃厚接触者になりキャンセルとなるケースが相次ぎ、大幅に利用数が減った。しかし、社会的にコロナ感染者が減少してきた３月には、利用数も回復傾向となった。

　利用者数が多くなり、感染対策としてこれまで以上に密を避ける事と一人ひとりのスペースを確保する為、食事やおやつの時間を分けたり、プログラムを２部制にして活動部屋を分けたりする等の対策を取っていった。

　今年度も法人としてコロナ禍で移動範囲の制限を行い、土曜日の外出プログラムは実施しなかった。

職員の事務作業の効率化及びデータ化の為、６月からは個別の活動記録（ケース記録）をパソコン入力式に切り替えた。手書きに慣れていた職員に初めは戸惑いも見られたが、徐々に慣れてスムーズに移行できた。

【居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護】

　居宅介護においては、継続的に利用されていた方の入所施設への移転を機に減少している。

　行動援護はコロナ禍で他府県への移動やプール・入浴施設・遊戯施設への外出を控える等、余暇支援の活動範囲が制限される中、短時間の利用が多くなった。同性介助を基本としている為、特に男性職員が少ない事もあり、個々のニーズに応えられず利用回数を制限せざるを得ない状態もあった。また、余暇支援目的以外にも、様々な家庭環境において在宅生活の維持を目的として通院付き添いの代行やレスパイト的な利用も増えてきている。

　同行援護は２名の利用者が継続して利用されている。重度訪問介護は今年度も対象者がいなかった。

【地域生活支援事業（移動支援・日中一時支援）】

　移動支援は行動援護同様に活動範囲の制限から余暇支援の利用時間は少なくなっている。一方で、グループホーム利用者等の通院付き添い等の支援は増加傾向にある。

　日中一時支援は「ちょこっとステイ」を継続したが、１月の職員のコロウイルス感染を受けて、以降は感染拡大防止の為に児童と成人の活動場所を明確に分け、オープンスペース‛AYUMI’のフロアを借りて実施している。おやつ提供等は状況を見て配慮しつつ行っている。

【インフォーマルサービス】

　「ちょこっとステイ」について、１月以降はオープンスペース‛AYUMI’のフロアを借りて実施している。その他、送迎サービスを行った。

　音楽プログラム「ケチャケチャ」は今年度も感染拡大防止の為、行わなかった。

以上